

法華コモンズ仏教学林

2021(令和3)年度 後期講座 10月より開講

開設講座一覧と受講の手引き

〈 開設講座 〉

連続講座「仏教哲学再考—『八宗綱要』を手掛かりに③」全4回

開講時間 午後4時30分～6時30分

講師：末木 文美士

第1回 11月6日 / 第2回 12月11日 / 第3回 1月8日 / 第4回 2月5日

シリーズ講座「法華仏教講座」全6回 開講時間 午後4時30分～6時30分

第1回 10月 2日 「台密における日蓮の血脈相承の系譜」 講師：川崎弘志

第2回 11月 27日 「近世における日蓮聖人遺文の編纂を考える」 講師：木村中一

第3回 12月 4日 「『観心本尊抄』本尊段の本尊と「本門本尊」との関係について」 講師：宮田幸一

第4回 1月22日 「法華コモンズがめざすもの」 講師：西山 茂

第5回 2月 26日 「有と無と空と空性と」 講師：大竹 晋

第6回 3月 26日 「天台教学の四重興廃と日蓮教学の五重相対」 講師：花野充道

歴史から考える日本仏教⑧「裏から読む鎌倉時代—日蓮遺文紙背文書の世界—」全5回

原則：第3火曜日 午後6時30分～8時30分

講師：菊地 大樹

第1講 10月 19日 「日蓮遺文紙背文書とはなんだろう」

第2講 11月 16日 「日蓮と富木氏・八幡荘」

第3講 12月 21日 「千葉氏の活動と京・鎌倉・鎮西」

第4講 1月 18日 「日蓮をとりまく金融経済の世界」

第5講 2月 15日 「日蓮をとりまく百姓の世界」

連続講座「『法華経』『法華文句』講義」全6回

原則：最終月曜日 午後6時30分～8時30分

講師：菅野 博史

第1回 2021年 10月25日 / 第2回 11月29日 / 第3回 12月20日

第4回 2022年 1月31日 / 第5回 2月28日 / 第6回 3月28日

※コロナ禍状況によりオンラインまた動画配信講義への延期・中止の変更も御承知のほどお願いいたします

法華コモンズ仏教学林事務局

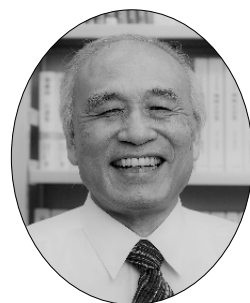
「再歴史化」の知的な拠点を創りましょう！ 理事長 西山 茂

戦前期に生きた田中智学は、日蓮仏教を近代日本に「再歴史化」（蘇生）するために、「祖道復古」と「国体開頭」および「宗門革命」（宗門の維新）の旗を掲げて日蓮主義の運動を主導し、複数の教学講習会を開いて、以後の日蓮仏教諸派の僧俗に多くの影響を与えました。

今回、私たちが11年間も続いた本化ネットワーク研究会を閉じて法華コモンズ仏教学林（門流や会派を超えた法華仏教の学び舎）を起ち上げたのも、法華仏教（日蓮仏教）を現代日本に「再歴史化」するためにほかなりません。「再歴史化」の意味を深く考えるとすれば、それは普遍的な宗教真理は特殊な歴史状況のなかに繰り返し「再歴史化」されなければ人々への説得力を失ってしまう、ということでしょう。

現代社会は智学の時代と違ってより複雑化しているだけでなく、教学や遺文の研究レベルも上がり、それだけ私たちが学ばなければならないことが多くなっています。こうしたことは、門流や会派が単独で法器養成等に取り組むことを非常に難しくしているといえます。そして、このような事態も、法華コモンズ仏教学林の誕生を促す要因となっているといえるでしょう。幸い、法華コモンズ仏教学林には、多彩で優れた講師陣が揃っています。

皆さま、この際、どうか法華コモンズ仏教学林の受講生となり、門流や会派の中垣を超えて法華仏教（日蓮仏教）の共通の智を学び、ともに仏国土づくりの聖業に邁進しようではありませんか。



皆様のご参加をお待ちしております！

学林長 布施 義高

日蓮仏教の「再歴史化」を理念として、斯界に新たな地平を切り開いた、東洋大学名誉教授・西山茂先生主宰の本化ネットワーク研究会。また、日蓮聖人の実像や、壮大なスケールの思想の全体像を浮き彫りにすべく、日蓮門下が一丸となって編集され、平成27年全五巻の刊行完結をみた『シリーズ日蓮』（春秋社）。こうした画期的な成果を受け継ぎ、平成28年4月、西山茂先生を理事長、シリーズ日蓮刊行会会長・佐古弘文先生（同年11月御遷化）を副理事長に仰ぎ、法華コモンズ仏教学林が始動いたしました。

これから本格的に法華経や日蓮聖人を学びたい方の登竜門として、また、各教団が課題とする人材育成、次日の日蓮門下全体の隆盛へ向けての基礎作りの場として、さらには、より高みを目指す研究者の研鑽の場として、多様なニーズを満たせるよう、スタッフ一同、鋭意努力して参ります。

法華コモンズの主役は、これから参加される皆様お一人おひとりです。仏教界全体に、時代を先導し、光明を灯す力が求められている昨今、日蓮仏教（法華仏教）の立場から、世の期待に大いに応えていこうではありませんか。



法華 commons 仏教学林 スタッフ紹介

【運営スタッフ】

○理事長 西山 茂

○学林長 布施義高

○事務担当 澁澤光紀

竹内敬雅

○財務担当 竹内敬雅

○総務担当 西條義昌／谷口 智

○ブログ担当 林 明彦

○ツイッター担当 武川清明

○動画配信 竹内敬雅／神蔵寿観／林 明彦／山名隆年

【教学委員】

○上杉清文

○花野充道

○菅野博史

○寺尾英智

【講座担当】

○講座（末木先生）武川清明／作田光照

佐古弘純

○法華仏教講座 西山明仁／佐古弘純

波田地克利

○講座（菊地先生）芹澤寛隆／西山明仁

宮崎伸治

○講座（菅野先生）稲田隆広／作田光照

澁澤光紀

【 講座会場 】

福聚山 常円寺 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-12-5 寺務所 ☎ 03 (3371) 1797

祖師堂地階ホール（または日蓮仏教研究所の一階「学室」）

※「対面講義」を前提として開催日と会場をお知らせしています。コロナ禍の状況により「オンライン講義」「講座動画配信」「代講」または「延期」「中止」などの変更も予測されますので、受講者の皆さまにはご了承の程よろしくお願い致します。なお、延期・中止の場合は「受講料は返却」しております。

《会場への交通》

- JR線・小田急線・京王線・丸ノ内線を利用の場合
⇒ 新宿駅西口改札より徒歩6分
- 西武新宿線を利用の場合
⇒ 西武新宿駅正面口改札より徒歩6分
- 大江戸線を利用の場合
⇒ 新宿西口駅「D5出口」より徒歩3分
- 丸ノ内線を利用の場合
⇒ 西新宿駅1番出口より徒歩4分



◎受講申込は、最後の12頁に申込説明と「申込欄」がありますので、そちらをご覧ください。

—法華コモンズ仏教学林 2021年度 後期 連続講座 全4回—

仏教哲学再考——『八宗綱要』を手掛かりに ③

講師：末本文美士 先生

【講義概要】

凝然『八宗綱要』（1268）は、著者29歳の若書きであるが、750年経った今日でも、仏教教学の全般を見渡すには、本書に優るものはない。とは言え、形式的に主要概念を羅列しただけのところも多く、いわば暗記用の受験参考書のような味気ないところがある。それ故、手掛かりとしては便利であるが、それ以上の内実を求めるのは難しい。そこで、本講義では、講読という形ではなく、本書を手掛かりとしつつも、それに捉われずに、諸宗の教学を今日どのように受け止め、考えたらよいのか、応用的に問題を広げ、手探りして検討していきたい。前期の継続で、天台宗から読み始めるが、新規聴講も問題ない。下記テキストを用いるので、聴講者には毎回多少予習しておくことを求める。

★教科書：鎌田茂雄全訳注『八宗綱要』（講談社学術文庫）

【講師略歴】

末本文美士（すえきふみひこ）。1949年山梨県生まれ。東京大学大学院人文科学研究科博士課程単位取得退学。文学博士。現在、東京大学名誉教授、国際日本文化研究センター名誉教授、未来哲学研究所所長。専攻は仏教学、日本思想。著書に『日本仏教史 思想史としてのアプローチ』（新潮文庫）、『仏教 言葉の思想史』（岩波書店）、『日蓮入門 現世を撃つ思想』（ちくま新書）、『思想としての仏教入門』（トランスビュー）、『『碧巖録』を読む』（岩波現代文庫）、『草木成仏の思想』（サンガ）、『冥蹟の哲学1、2』（ぶねうま舎）、『日本思想史』岩波新書、他多数。

【講義日】 全4回 時間（原則・第1土曜日）：午後4時30分～6時30分

第1回	（第9講）	2021年	11月6日（土）
第2回	（第10講）	〃	12月11日（土）
第3回	（第11講）	2022年	1月8日（土）
第4回	（第12講）	〃	2月5日（土）

【会場】 新宿常円寺 祖師堂 地階ホール

※対面講義が不可の場合は、オンライン講義に切替えて同じ日時にて開催する予定です

【受講料】 1期4回分 10,000円 ※当日1回の受講料は3,000円です

—法華コモンズ仏教学林 2021年度後期 連続講座 全6回—

シリーズ講座「法華仏教講座」

【日 時】 毎月1回 原則土曜日の午後4時30分～6時30分 (2021年10月～2022年3月の6回)

【会 場】 新宿常円寺祖師堂地階ホール 新宿区西新宿7-12-5 寺務所 ☎ 03(3371)1797

※対面講義が不可の場合は、オンラインまたは動画配信講義に切替えて開催する予定です

【受講料】 1期6回分 12,000円 ※1回のみ受講料は3,000円です

第1回 台密における日蓮の血脈相承の系譜 講師：川崎弘志 先生

【日 時】 2021年10月2日(土) 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

日蓮と密教、特に台密との関係を考察する上での最重要文献が建長六年の『不動・愛染感見記』である。この『不動・愛染感見記』には大日如来から数えて二十三代目が日蓮であるとの記述がある。かつて山中喜八氏はこの二十三代をそれぞれ特定していたが全容は公開されていなかった。

今般、山中氏が特定した二十三代の系譜の全貌を紹介するとともに、山中氏の典拠資料を精査した上で、新たに特定した二十三代の相承系譜を解説する。

【講師略歴】

川崎弘志(かわさき ひろし)：1954年12月大阪生まれ。大学卒業後、関東でエンジニアとして数社に勤務し現在にいたる。勤務の傍ら在野の研究者として『法華仏教研究』誌などに日蓮研究の論考を投稿している。『法華仏教研究』編集委員。

第2回 近世における日蓮聖人遺文の編纂を考える 講師：木村中一 先生

【日 時】 2021年11月27日(土) 午後4時30分～6時30分

【講義概要】

日蓮聖人の思想や教学を知るためには、聖人自身が著述・撰述した所謂「日蓮聖人遺文(以下、遺文)」を繙かねばならない。聖人滅後の弟子らは遺文に鑿められるその文言より、時には聖人の宗教的体験を追体験し、

またある時はその教学に対する疑念などを払拭するのである。このような遺文は直弟子などの「護持護法の念」を基として恪謹され、現代にその姿を伝えている。また後世の遺文写本化・刊本化によりその内容が広く普及するのであるが、近世中期を境として「遺文継承史」とも言うべきその歴史に新局面が生まれるのである。それが「編年体遺文目録の発生」であった。

本講義では、「編年体御書目録」の発生を出発点とし、その種類と受容、特に後に与えた影響などについて、その一端を明らかにしたい。

【講師略歴】

木村中一（きむら ちゅういち）：1977年福井県生まれ。立正大学大学院文学研究科博士後期課程宗学コース単位取得満期退学。修士（文学）。現在、身延山大学仏教学部教授、身延山大学国際日蓮学研究所主任、東京都池上法養寺住職。専攻は主に日本仏教、日蓮教団史、日蓮聖人遺文研究。編著書および分担執筆に『朝夕諷誦日蓮聖人御遺文』（主筆編集・大本山池上本門寺、2019）、「日蓮教団と為政者」（『仏教と日本Ⅰ（日本佛教学会叢書）』法蔵館、2020）、『鷲峯山常忍寺史話』（鷲峯山常忍寺、2015）、『法華経の事典』（分担執筆・東京堂出版、2013）他

第3回 『観心本尊抄』本尊段の本尊と「本門本尊」との関係について

講師：宮田幸一 先生

【日 時】 2021年 12月 4日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

『観心本尊抄』本尊段には「其の本尊の為体、本師の娑婆の上に宝塔空に居し、塔中の妙法蓮華経の左右に釈迦牟尼仏・多宝仏、釈尊の脇土上行等の四菩薩、文殊弥勒等は四菩薩の眷属として末座に居し、迹化・他方の大小の諸菩薩は万民の大地に処して雲閣月卿を見るが如し。十方の諸仏は大地の上に処したまふ。迹仏迹土を表する故なり」とあり、本尊の姿が描写されている。日蓮が囃頭した文字曼荼羅は本尊段の本尊を具体的に表現したものだと考えられている。

しかし本尊段のこの記述の後で、正像の小乗・権大乘・迹門の釈尊本尊と対比して、末法の「寿量の仏」の「仏像」のことが記述されている。その次に流通段では像法の天台について、「但理具を論じて事行の南無妙法蓮華経の五字並びに本門の本尊、未だ広く之れを行ぜず」と述べて、「本門の本尊」が言及されている。

次いで、四天王寺、東大寺、延暦寺の仏像本尊と対比して、「此の時地涌千界出現して、本門の釈尊の脇土と為り（本門の釈尊を脇土と為す）一閻浮提第一の本尊、此の国に立つべし。月支震旦に未だ此の本尊有さず」と末法に地涌千界が建立する（「本門の四菩薩」を伴う）「一閻浮提第一の本尊」について言及している。

そして『報恩抄』において「一つには日本乃至一閻浮提一同に本門の教主釈尊を本尊とすべし。所謂 宝塔の内の釈迦・多宝・外の諸仏並びに上行等の四菩薩脇土となるべし」とあり、前段で「本門の教主釈尊」が本門の本尊であると述べながら、後段で「所謂宝塔の内の釈迦・多宝」と述べて、『観心本尊抄』「本尊段」を連想させる記述となっている。

しかし『報恩抄』の対告衆である浄願房に与えられた『本尊問答抄』では「本門の本尊」に言及することなく、「問うて云く、末代悪世の凡夫は何物を以て本尊と定むべきや。答へて云く、法華經の題目を以て本尊とすべし」「法華經は釈尊の父母、諸仏の眼目なり。釈迦・大日総じて十方の諸仏は法華經より出生し給へり。故に今能生を以て本尊とするなり」と述べて、「釈尊」ではなく「法華經の題目」を本尊とすることを述べている。この本尊は末尾の「御本尊を書きおくりまいらせ候」という記述により、文字曼荼羅本尊であることが分かる。

これらの多様な記述により、『観心本尊抄』本尊段の本尊＝流通段の「本門の本尊」＝文字曼荼羅という解釈と、文字曼荼羅＝『観心本尊抄』本尊段の本尊≠流通段の「本門の本尊」＝本門の教主釈尊という解釈が分かれている。日蓮自身がどう考えていたのかは不明であるが、日蓮仏法継承者たちがどのように理解していたかを調べてみたい。

【講師略歴】

宮田幸一（みやた こういち）：1949年、北海道室蘭市生まれ。東京大学文学部哲学科卒業。東京大学大学院人文科学研究科哲学専攻博士課程満期退学。後、東洋哲学研究所研究員、新潟短期大学専任講師、創価大学文学部人文学科助教授を経て、創価大学文学部人文学科教授。現在、創価大学名誉教授。

第4回 法華コモンズがめざすもの

講師：西山 茂 先生

【日 時】 2022年 1月22日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

法華コモンズの学是は日蓮仏教の「再歴史化」（現代的蘇生）で、そのために日蓮遺文その他を「学ぶ」ことが当学林の当初からの主目的であった。その意味で、「実践」は、当学林が直接的にめざすものではなかった。とはいえ、当学林は、日蓮仏教の「実践」と無関係ではない。否、そのための学び舎が当学林であるというべきであろう。

では、日蓮仏教の「実践」とは何か？ あれこれと日蓮遺文を紐解くまでもなく、日蓮仏教の眼目が個人的には題目受持による名字即成仏であり、社会的には「立正」による「安国」（仏国土成就）にあることは明らかである。なかでも、日蓮仏教の特色は、社会成仏にあるといえよう。だが、それがわかったところで、直ちに「立正」による「安国」が成就するわけではない。このうち、「立正」については教学の専門家に任せて、ここでは「実践」だけについて語ろう。

当学林名にある「コモンズ」とは、共有地とか共有林のことで、西洋史的には15世紀末からイギリスで起って資本主義成立の淵源となった「エンクロージャー」（第一次）により、「儲かる羊牧場づくり」のために領主に追い払われた農民たちの耕地や共有地・共有林（日本の藩政村にもあった）を意味していた。

しかし、この言葉には、人間が人間としてまっとうに取り扱われる「共同体的拘束」なき「理想の共同体」という思い入れもある。『人新生の「資本論」』（2020年、集英社）の著者の斎藤幸平は、あらゆるものを商品化してやまない資本主義を克服する妙薬として、「コモン」の概念を提示した。「コモン」も

「コモンズ」も、「金儲け」よりも人間の「共同性」や社会の「共同体性」を重んじるという含意に大差はない。

ここで、われわれは「宗教と社会主義との共振」（村岡到）現象を想起すべきであろう。つまり、両者とも、回歸すべき原郷としての「理想の共同体」をもっている。その意味で、宗教も社会主義も、故郷喪失者の「再共同体化運動」であるといってもいい。断っておくが、ここでいう「社会主義」は、中国や北朝鮮とは、まったく関係がない。

旧来の日蓮仏教的には「コモン」ないし「コモンズ」に相当することを、「仏国」とか「本門の戒壇（事壇）」建立の暁とか「一天四海回帰妙法」の世とかいうが、これらは日蓮仏教でしか通じない「隠語」でしかない。では、どうしたらいいのか？

そのためには、日蓮仏教の「隠語」を、世俗の誰にもわかるような「世俗語」に翻訳しなければならない。世俗のなかには、題目こそ唱えないが「コモンズ」や「コモン」ならばわかる「末唱の菩薩」（キング牧師や中村哲さんなど）が沢山いる。要するに、当学林生は、日蓮仏教に精通するとともに、それを世俗語・現代語に翻訳するエキスパートにもならなければならない、ということである。

この講義では、法華コモンズが最終的にめざすものと、翻訳の問題も含めて「再歴史化」の方途について、ともに考えてみたい。

【講師略歴】

西山茂（にしやま しげる）：1942年、埼玉県生まれ。東京教育大学大学院文学研究科社会学専攻博士課程単位取得満期退学。東洋大学社会学部教授を経て、現在、東洋大学名誉教授、東洋大学東洋学研究所客員研究員、法華コモンズ仏教学林理事長。専門は宗教社会学とりわけ宗教運動論と教団組織論。単著に『近現代日本の法華運動』（春秋社、2016年）、単編著に『シリーズ日蓮第4巻・近現代日本の法華運動と在家教団』（春秋社、2014年）、共編著に『新宗教事典』（弘文堂、1990年）、『現代人の宗教』（有斐閣、1988年）、『リーディングス日本の社会学19・宗教』（東京大学出版会、1986年）などがある。

第5回 有と無と空と空性と

講師：大竹 晋 先生

【日 時】 2022年 2月26日（土）午後4時30分～6時30分

【講義概要】

仏教において“存在”はどのように理解されてきたのでしょうか。その歴史を、「有」「無」「空」「空性」ということばをキーワードとして、インドから日本にかけて追っていきたいと思っています。

とりわけ、重点的に扱ってみたいのは、次のような諸思想において“存在”がどのように理解されているかです。

- ・インドにおける中観思想、唯識思想、如来蔵思想
- ・中国における天台思想、『大乘起信論』、華嚴思想
- ・日本における天台思想、密教思想

なお、「有」「無」は二諦／三諦と関係し、「空」「空性」は仏性／仏身／涅槃と関係しますので、それぞれの思想において、二諦／三諦や仏性／仏身／涅槃がどのように理解されているかについても明らかにしていく予定です。

当日はプリントを配布します。参考文献は特にありません。

【講師略歴】

大竹晋（おおたけ すずむ）：1974年岐阜県生まれ。筑波大学卒業。筑波大学大学院哲学・思想研究科博士課程修了。博士（文学）。現在、仏典翻訳家。著書に『大乘起信論成立問題の研究』（国書刊行会）『「悟り体験」を読む』（新潮社）など、訳書に『現代語訳 最澄全集』全四巻（国書刊行会）などがある。

第6回 天台教学の四重興廢と日蓮教学の五重相對 講師：花野充道 先生

【日 時】 2022年 3月26日（土）午後4時30分～6時30分 ※対面講義として

【講義概要】

日蓮聖人の教学を考察する場合、当時の叡山における中古天台教学との関わり合いが問題になる。智顛教学の絶待妙釈を爾前→迹門→本門→観心と次第して論ずるのが、中古天台の四重興廢思想である。その内容を図示すれば、迹門は理の絶待妙→本門は事の絶待妙→観心は事理不二（本迹不二）の絶待妙となる。要するに、円融相即の無分別義（絶待妙）を徹底させていく教判である。対して日蓮教学の五重相對は、教法の勝劣（相待妙）を内外相對→大小相對→権実相對→本迹相對→種脱相對と次第して論ずる有分別の教判である。日蓮教学と中古天台教学の異質性（台当違目）について解説してみたい。

【講師略歴】

花野充道（はなの じゅうどう）：1950年京都府生まれ。早稲田大学大学院文学部東洋哲学専攻博士課程修了。博士（文学）。法華仏教研究会主宰。『法華仏教研究』編集長。法華コモンズ仏教学林教学委員。単著に『天台本覚思想と日蓮教学』（山喜房仏書林、2010年）、単編著に『シリーズ日蓮第1巻・法華経と日蓮』（春秋社、2014年）、『シリーズ日蓮第2巻・日蓮の思想とその展開』（春秋社、2014年）、『シリーズ日蓮第3巻・日蓮教団の成立と展開』（春秋社、2015年）、『花野充道博士古稀記念論文集—仏教思想の展開・日蓮仏教とその展開』（山喜房仏書林、2020年）。他、論文多数。

—法華コモンズ仏教学林 2021年度後期 連続講義 全5回—

連続講座 歴史から考える日本仏教⑧

裏から読む鎌倉時代—日蓮遺文紙背文書の世界—

講師：菊地 大樹 先生

【講義概要】

この講座は、歴史学の立場から日本仏教のさまざまな側面を継続的に考えてゆくことを目指します。これは言い換えれば、教理文献に残された思想を、それが著された時代の文脈の中で立体的にとらえなおす営みに他なりません。しかもひとつの時代は系譜となって、前後に長く連なってもいます。そこで日蓮の生きた鎌倉時代をつねにどこかで射程に入れつつも、ときには原始古代にまでさかのぼり、また私たちの生きる近現代にも立ち戻って進んでいきたいと思えます。

2021年度後期は、参加者とともに「日蓮遺文紙背文書」を読みたいと思えます。紙が貴重だった時代、最初の役割を終えて反故となった手紙や事務書類などは、棄ててしまわずにその紙の裏側を日記や典籍の書写などに再利用しました。このようにして、偶然生き残った文書を「紙背文書」といいます。日蓮聖人の下総国における最大の外護者・富木常忍は、守護千葉氏のもとに事務官僚として仕えていましたが、手元に溜まった大量の反故紙を日蓮聖人に提供しました。それを利用して書かれた「天台肝要文」「破禅宗」「双紙要文」などのノート類は、いまも国指定重要文化財として中山法華経寺聖教殿に伝来しています。これらの聖教紙背文書からは、日蓮聖人の生きた時代の社会の息吹が生き生きと感ぜられます。

近年の研究に学びながら、「日蓮遺文紙背文書」から毎回テーマを選び、古文書の写真を見ながら活字テキストを読解しつつ、解説していきたいと思えます。テキストは基本的に『千葉県歴史』資料編・中世2を利用し、事務局にてご用意いたします。

【講師略歴】

菊地大樹（きくちひろき）： 東京大学大学院修士課程修了。博士（文学）。現在、東京大学史料編纂所教授。著書に『鎌倉仏教への道』（講談社、2011年）、『日本人と山の宗教』（講談社、2020年）他。論文に「再考：持経者から日蓮へ」（『花野充道博士古稀記念論集』山喜房仏書林、2020年）、「円爾系の印信から見る禅と密」（末木文美土他編『中世禅の知』、臨川書店、2021年）他。

【講義日】 全5回、時間（原則・第3火曜日）：午後6時30分～8時30分

- 第1講 10月19日（火） 日蓮遺文紙背文書とはなんだろう
- 第2講 11月16日（火） 日蓮と富木氏・八幡荘
- 第3講 12月21日（火） 千葉氏の活動と京・鎌倉・鎮西
- 第4講 1月18日（火） 日蓮をとりまく金融経済の世界
- 第5講 2月15日（火） 日蓮をとりまく百姓の世界

【会場】 新宿常円寺 祖師堂 地階ホール

※対面講義が不可の場合は、オンライン講義に切替えて同じ日時にて開催する予定です

【受講料】 1期分 10,000円（全5回の講義） ※当日1回の受講料は3,000円です

—法華コモンズ仏教学林 2021年度後期 連続講座 6回—

「『法華経』『法華文句』講義」

講師 菅野 博史 先生

【講義概要】

今年度の後期も、『法華経』『法華文句』の講義を継続します。『法華文句』は『法華経』の随文釈義の注釈書ですので、「注釈書読みの経典知らず」にならないためには、『法華文句』を読むときには、常に『法華経』の本文を読まなければなりません。現在、『法華文句』の本文を地道に読む機会はほとんどないと思われるので、この講義では、『法華文句』の本文をすべて読んでいます。もちろん同時に『法華経』も読んでいきます。受講生のご希望がある限り、地道に続けていきたいと思っています。

方便品の随文釈義の部分在学习中です。

★教科書『法華文句』Ⅱ（第三文明社、各冊 2,530 円）★割引価格 2,000 円

★『法華経』はプリントを配布します

【講師略歴】

菅野博史（かんのひろし）：1952年福島県生まれ。1976年東京大学文学部印度哲学印度文学科卒業。1984年東京大学大学院博士課程（印度哲学）単位取得退学。1994年文学博士（東京大学）。現在、創価大学文学部教授、（公財）東洋哲学研究所副所長。専門は、仏教学、中国仏教思想史。著書に『一念三千とは何か—摩訶止観正修止観章一』（第三文明社）、『法華経入門』（岩波書店）、『中国法華思想の研究』（春秋社）、『南北朝・隋代の中国仏教思想研究』『法華経—永遠の菩薩道—』（大蔵出版）など多数。訳書に『現代語訳 法華玄義』上・下（東洋哲学研究所）、『現代語訳 法華玄義釈籤』上（松森秀幸と共訳、東洋哲学研究所）など多数。

【講義日】 全6回、時間（原則・最終月曜日）：午後6時30分～8時30分

第1回（第41講）2021年 10月25日

第4回（第44講）2022年 1月31日（土）

第2回（第42講） // 11月29日

第5回（第45講） // 2月28日（土）

第3回（第43講） // 12月20日

第6回（第46講） // 3月28日（土）

【会場】 新宿常円寺 祖師堂 地階ホール

※対面講義が不可の場合は、オンラインまたは動画配信講義に切替えて開催する予定です

【受講料】 1期6回分 12,000 円 ※当日1日の受講料は 3,000 円です

受講の申込について

聴講希望の方は、この頁のコピーまたは別紙(チラシ)申込欄の各項目に御記入頂きまして、下記のファックス番号にご送信ください。申込用紙が届きましたら、「受講手続き書類」をお送りいたしますので、その手続きに従って1期分の「受講料」をお振込下さい。また「コモンズ口座の郵便振込票」をお持ちの場合は、通信欄に希望講座をお書きの上、振込票をお使いください。お振込を確認しましたら、「受講証」・「受講の手引き」そして領収書をお送りします。なお、メールで申込希望の方は、同様の内容をお書きの上、下記のアドレスに送信してお申し込み下さい。なお、受講者が極端に少ない場合は開講を見合わせますので、ご了承下さい。

メールアドレス ⇒ hokkecommons@gmail.com
FAX 番号⇒ 042-627-7227 / ブログ⇒ <https://hokke-commons.jp>

..... 申込欄

《受講希望の講座の□をチェックして下さい(いくつでも結構です)》

- 「仏教哲学再考一『八宗綱要』を手掛かりに」③(全4回) 講師：末木文美士

- 連続講座「法華仏教講座」(全6回)
 ※個別の受講の場合 1回 2回 3回 4回 5回 6回

- 歴史から考える日本仏教 ③
 裏から読む鎌倉時代一日蓮遺文紙背文書の世界一(全5回) 講師：菊地大樹

- 「『法華経』『法華文句』講義」(全6回) 講師：菅野博史

上記、チェックを入れた講座の受講申込みをいたします

○氏名 _____ 男・女 _____ 才 _____
○住所 〒 _____

○電話 _____ Fax (mail) _____